

別れと出会い ～退園、入園報告～



母の日 子どもたちからミサンガの贈り物

「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言えるということはとても大切なことだと気づかされる日々です。

カンボジアには母の日や父の日をお祝いする文化はありませんが、園では母の日に子どもたちからいつもお世話になっている保母さんたちへ改めて感謝の思いを伝えました。

日頃から感謝の気持ちを伝えることが出来るようになってほしいと思います。

さて、今月のDREAM通信では、退園と入園報告、アメリカ大使館へ見学に行った様子についてお伝え致します。

アメリカ大使館見学



大使館の中で記念撮影

園のあるポーサット州クラコー郡にアメリカ大使館の支援により建てられた病院の開院式が行われ、園の子どもたちが手伝いとして参加したことから、アメリカ大使館に招待され、中学生と高校生の子どもたちが見学に行きました。

アメリカ大使館の中はセキュリティが厳しく子どもたちは終始緊張した様子、館内はどこを見てもきれいに整理されていました。

各部署の職員の方からどんな仕事をしているか、働く上で大切にしている事、気を付けていることなど、また進路のアドバイスをしていただきました。

昼食は大使の家に招待され、ビュッフェ形式の美味しい食事をごちそうしていただきました。見慣れないイタリアン料理にみんな興味津々、何度もおかわりしていました。

大使館に入ることは普段出来ないことで、今回子どもたち、そして職員も本当に貴重な経験をさせていただきました。

どの職員の方も今後のアドバイスとして「英語が出来ればチャンスが多い」「やりたいと思ったことは最後まで絶対に諦めないこと」とお話しして下さいました。

この見学を機に、子どもたちの勉強に対する意識、英語の授業への取り組み方が変わることを期待しています。



ビュッフェ形式の豪華な昼食

退園者



お世話になった保育さんへお礼を伝える

6月園から2人の子どもが退園しました。
1人目はスン・ティダエン（小5）、クメールお正月で家に帰省し、園に戻って来てから「家に帰りたい」と訴えがありました。理由は「勉強をしたくない」「お母さんと一緒にいたい」ということでした。

ティダエンが家に帰りたいと言ったのは今回が初めてではありませんでしたが、今までは葛藤しながらも園にいることを選んできました。しかし今回は里親様も心配してスカイプで話をして下さいましたが、本人の意思は固く気持ちは変わりませんでした。

2人目はリーチ・スレイモイ（中1）、3年前程から人の物を盗ってしまうことがあり、その都度職員、家族、警察から指導をしていましたが、どんどんエスカレートしてしまっていました。

このまま園にいさせることは、本人にとっても他の子どもにとっても良くないと判断し、退園をさせることにしました。

今回の盗みについて、子ども全体会議で話し合い、盗みは絶対にやってはいけないことだと強く伝えました。

また今回スレイモイからお金をもらった子ども、お菓子をもらった子ども、盗んだことを知っていたのに隠していた子どももいました。

今回の問題はスレイモイだけではないこと、皆がこの事実を重く受け止め、反省してほしいと話をしました。

退園を自ら決めた子、こちらから退園させることを決めた子、この2人が今後どんな将来を歩んでいくのか見守ることが出来なくなってしまいました。今回の判断が2人にとって良い方向に向かうことを願うばかりです。

時に1人の人生を大きく変えてしまう決断をしなくてはならないこともあります。

子どもたちには園にいることを心から幸せだと思ってほしい、それが私たち職員の願いです。

新入園児紹介

新しく4人の兄弟が入園しました。マオン・ヴィアスナー（小3）、マオン・チャンター（小1）、マオン・チャンドウウン（小1）、マオン・チャンナー（幼稚園）です。

両親は離婚、父親と一緒に住んでいましたが父親は持病とアルコール依存症で暴力を振るうことがあり、叔父が生活を見ていましたが、地区からの勧めで入園することになりました。

早く園の生活に慣れ、強くたくましく育ててほしいと思います。



リーチ・スレイモイ(中1)退園



マオン4兄弟 元気いっぱいです



長男のヴィアスナー 働き者です